



「親を演じる」ススメ

社会福祉法人 大阪誠昭会 寝屋保育園 園長 田中啓昭

前回(育てよう!子どもの問題解決能力)と前々回(言葉のチカラ)は「子どもにとって大人(親)は最大の環境である」というテーマに基づき、主に子どもへのかかわり方、働きかけを中心にお伝えしてきました。そして、今回は「自らを整備する(整える)」という部分に焦点をあててお伝えしていきたいと思います。

親になるということは、物的にはさほど難しいことではありません。しかし、一方では親になるということは漠然としていて、数量で計ったりすることはできないので精神的な観点からは難しいことなのかもしれません。そもそも、心構え(心の準備)

ができてから親になるのでしょうか?おそらく、「自分は親になるにふさわしくなったから親になったんだ」という人は、あまりいないんじゃないのかな、と思います。そろそろ親になる(子どもを持つ)年齢になったから、という客観的な数字(年齢)が尺度だったという方が大半だと思います。ということは、子どもを持つという事実ができてから、すぐに「親になる心構え」「親としての自覚」「親としての自信」といった精神的な要素が備わっているものではないかと思うのです。

子どもと向き合って、初めて喜びや悲しみなどいろいろな感情や経験を積み重ねていき、親としての自覚を蓄えていく。



それが蓄積されることで親としての自信が築かれていく。つまり、心構えを持ち、自覚のもとに行動し、自信を持つようになる。そういったプロセスが親になるためには必要なんだと思うのです。

このようなプロセスを経る中で、子育てに自信を持つために大切なこと、それが「親を演じる」ということです。昔からよくいいますが、「自分が育てられないよ!」と、子どもを育てられないことや親の生きざま、考え方などは長い年月をかけて無意識のうちに自分の中に蓄積されているのです。

あなたの動作や言動を他人が見たり聞いたりして、「あんな、やっぱりお父さん(お母さん)の子やわ。よく似ているわ!」などといわれたことってありませんか? 遺伝的なものな

のか、本当のところどうかよくわかりませんが、私は自然とまねているんだと思うのです。そして無意識のうちに染み付いてしまったものを、自分の子どもにも伝えていくのです。そのようなことから「自分が育てられないよ!」というのかも知れない、などと思うのです。だからこそ、親としての意識を変え、ふるまいを変えれば、無理なく自然に育ってほしい子どもに成長し、その結果が子育てへの自信につながるのではないかと思うのです。

そこで、みなさんに提案です。「自分が理想とする親」を演じてみませんか?

そうすることで自分自身も子育てを通じて人間的に成長していくことにもなりますし、結果もついてくることから、きっと子育てに自信を持つよ

うになってくるはずですよ。繰り返し演じることで、その行動や考え方が体に染みついていき、自分がめざす理想の親に一歩一歩近づいていくことになるのです。

つまり、子どもと親にとってWIN-WIN(双方に利益がある)の関係。それが「自分が変わり、理想の親を演じる」ということ。

そうして育った子どもは、自信にうち溢れて誰からも尊敬される親を見て、きっと憧れと敬いの気持ちを持つことになりましょう。そして彼らも自分が育ててもらったように、きっと自分の子どもを育てていくようになるはずですよ。そうなんです。「理想の親を演じる」ことが、良い循環を生むのです。

さあ、あなたも明日から、理想の親を演じてみませんか!

ほく、お父さんにそっくりなのかな?

